

レース報告書

[1] 大会名

石垣島トライアスロン大会2023

全日本トライアスロン宮古島大会

[2] 開催日 2023年4月9日(日) & 4月16日(日)

[3] 開催地 沖縄県石垣市&宮古市

[4] 競技情報

①4月9日(日)スタンダードディスタンス スイム1500m、バイク40km、ラン10km

②4月16日(日)ロングディスタンス スイム3km、バイク123km、ラン30km

[5] 大会結果 ①総合13位 年代別第2位 2時間17分48秒

②総合35位 年代別第1位 7時間08分16秒

【感想と想い】

希望新たに2023年シーズンが始まりました！

4月から日本ではレースオープンとなり南の島からのスタートです。この度はプロ活動で初めて石垣島大会後直に宮古島にわたり調整しロングレースの宮古島大会への挑戦となりました。

石垣島大会前にどうも調子が上がらないと感じており、それでも現地へ行けば…スタートすれば…と割り切っていました。レース中やはり踏ん張りがきかない、力が続かない感覚はありました。翌週に大きな大会を控えているし、これはセットとして考えているところからの体の防衛反応なのかもしれません。に、してもです。特にランニングが走れないことが本人の中では不本意で仕方がない。スイムに関してはまずまずで今回の調整でよかったのかと思っています。バイクに関しては力がまだ発揮できる状態ではない様子が確認できました。これからといったところです。石垣島大会は目指しているランキングイベントですが、年代別でも最強の選手が上がってきたこともあり、そう簡単にはいかなくなりました。昨年もケガで結局最後まで手こずりましたが、ここで怯んではだめ。「世界一を目指す」うえでは越えなければならない相手であるし、越えればそれが一気に近づいてくると想えるのです。ちなみにその選手は何年か前に世界一になっている選手で頑張り甲斐があります。

さて、見宮古島大会は長いレースになります。若い駆け出しの頃に2回ほど来たことがある宮古島でした。20年以上ぶりの宮古島は全く変わって街になっていました(笑)移住者が非常に多く、会う人がほとんどそうなのです。暮らしやすくここで生きると決めた人たちの心を感じます。遠征中にドンドン体調がよくなってきて

いることは感じました。本来2週連続をする選手は少なく、しかしながらアドバンテージを感じさせないパフォーマンスは発揮したいと考えていました。前日に雨がかなり降りましたが、当日はまさに快晴！暑さになっていない人たちは大変ですが、私にとっては心地よく感じました。写真の通り焦げ付いた体が出来上がりました。今大会は初参加のようなものでスタートはウエーブスタート方式で、ブロック単位で最終組。スイムで何百人も抜いていくということです。さすがに大変でした…バイクに入ると大体の力差の辺りでの入れ替わりはありますが目まぐるしいほどではなく、単独になってもとにかく123キロを駆け抜けていきました。ランに入ってからです…お腹にガス気を感じ、もよおすというのか便意を生じてお腹に力が入りません。それでも治るかもと思っていましたが結局これが最後まで続き、残り10km辺りからトイレに行くが行列で回避、最後の最後に2人並んでいたところを待ちトイレを済ませコース復帰です。直後に招待選手と並び心で励ましあいながらサイドバイサイド！出れば追いつかれ離されないように引っ張られ…ゴール手前1kmで歩いてしまう選手がいるほどの激坂があり、そこで覚悟を決めスパートです。走っているときはあそこで出られると厳しい…と思ってしまいましたが、その行動を自分が先にすることで叶った挑戦でした。その勢いでトラックに入ってもう一人招待選手を抜きその勢いでゴールへ。トイレの時間はもったいなかったのですが、最後にきっちり走れたことには満足で、これからの自分への期待と力になりました。

いろんな場面で挑戦すること…挑戦すれば良かった！となる…これを皆さんにお伝えしたいと思います。

プロマインドトライアスリート 福元テツロー

↓石垣島トライアスロン写真





↓全日本トライアスロン宮古島大会写真





